

【山崎主宰の俳句】

寧樂

山崎 聰

王朝の寧樂ならをおもえばほととぎす
炎日の枢を置くに水の下
その一本を赤い花アマリリス
遠い日はとおくなんばんぎせるかな
ゆつくりと下りて秋に追いつきぬ
諧謔のさいごのさいご秋の風
すこしだけやさしくなつて秋の夕暮
あと一步オリオン見えるところまで
秋の野赤く大きい子小さい子
十月の俺と尻尾と神楽坂